

## [ 編集後記 ]

千葉医学雑誌も新千年期の到来と共に76巻に達し、誠に喜ばしいことでもあります。今まで本雑誌に携われた諸先生方に感謝いたしますと共に、今後も更なる御協力をお願いいたします。

現在、千葉医学雑誌を取り巻く環境は殊の他厳しく、昨今のインパクトファクター等の評価の問題で、来年度より本雑誌も英語で書かれることとなり、査読の問題等も生じると思われます。これは医学部が大学院化や民営化に関する業績の問題等とも関わって参りますので、慎重に対処する必要があります。

新千年期の幕開けは最先端技術に関わる Y2K 問題そして同時期の発病が懸念されたコンピューターウイルス問題で始まりました。高々半世紀の歴史しか持たないコンピューターに世界は翻弄されました。特にアメリカ合衆国は何兆円もの費用を使い、その対策を実施しましたが、実際の被害は予想よりもはるかに少なく、大山鳴動して鼠一匹の感がありました。

日本でも、コンピューター問題の他に、昨年末より新幹線のトンネル事故、JCO の核燃料臨界事故、H2 型ロケットの打ち上げ失敗等々、先端分野の科学技術の基盤が揺らいでいます。

同様の問題は世界各地で見られ、産業革命以来の自然環境破壊と共に人類社会に多大な犠牲とストレスを与え続けています。

これらの原因は一体何処にあるのでしょうか。

コンピューターは人間の頭脳の代替物として有史以来人間が行ってきた大部分の行為を、はるかに迅速で、効率良く、しかも最も経済的に処理してくれます。これはまことにすばらしい先端技術

ですが、まったくのところ、計算され尽くした機械であるが故に、いささかの遊び(余裕)もありません。

日本で起きた事故にも、それらを支える技術に、図式どおりの集中的な緻密さの他に、巾と拡がり、所謂、真の意味の余裕を持つことの大切さを、痛感させられます。

即ち、最先端技術は人類の最高の知識を集めて作られたとは云え、所詮機械です。遊びの入る余地があろう筈がありません。知識に裏打ちされた技術には余分な遊びは必要としませんが、人間の想念や思惟、思考そして行為には計算不可能な深い洞察に基づいた予測し難い心のありようがあります。コンピューターからみれば、全く無駄な部分かもしれませんが、そこにこそ文化、芸術が生じた、と云えないでしょうか。

人間は身の内に矛盾を内在し、矛盾との葛藤によって思想や哲学、宗教が生まれたと思われまます。コンピューターでは全く相容れない矛盾の内在こそが人間の本性あるいは知性を形作るものであり、知識のみの蓄積からは決して生れ得ないものであることを想います。

新世紀は情報の世紀であると期待されています。このような時期にこそ知識に押し流されず、しっかりと、全貌とその本質を深く把握する知性が今最も求められているのではないのでしょうか。

余りにも誇大な事を述べてしまい、自身、身が縮む思いですが、千葉医学雑誌はもちろん、医学会として大局を見据えた更なる発展を心から期待しつつ、擱筆させていただきます。

(編集委員 龍岡 穂積)

## — 掲 示 板 —

75巻2号の特別寄稿で樋口誠太郎先生よりご紹介いただきました「千葉大学附属図書館亥鼻分館所蔵古書コレクション目録(中間版)」がこのほど発行されました。希望者は郵送料(切手340円、本体は無料)を添えて、〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部内 るのはな同窓会事務室宛にお申し込み下さい。